

市民ページ 1 親子で楽しい 国分寺子育てライフ!

国分寺には、気軽に子育ての相談ができる場所・イベントや子ども達が普段家で体験できないことができる遊び場があります。このページでは、その施策や施設の一部と子育て支援活動をされている方へのインタビューをご紹介します。

放課後子どもプラン国分寺

子ども達が放課後に健やかに学業活動ができるように、各学校の児童館を中心とした児童委員会が、学校や地域の力を結集して、子どもたちの安全で軽やかな居場所づくりを運営しています。

18歳未満の子どもの保護者、子育てに関わる人のための施設 国分寺市立子ども家庭支援センター

「親子スペース」、「講習会」、「総合相談」、「かるがも相談」、「児童虐待相談」など、子育てに関わる相談幅広く受け付けている施設です。

市民ページ 2 国分寺に歴史あり

国分寺には国指定史跡の武蔵国分寺跡など様々なメディアで特集されるような歴史を持っています。また同時に、駅周辺の開発により新たな人やモノの流れが生まれています。そんな新旧が混ざり始めている国分寺の魅力について、医王山院僧院国分寺住職の星野亮雅さんとおぼあさんの知恵店店主の三田村慶春さんにそれぞれインタビューを行いました。

星野亮雅さん
国分寺建立の背景

「天平13(741)年、聖武天皇の国分寺建立の詔により、全国に国分寺といふ名の寺が建立され、この東の國にも建立されました。当時の東の海軍城である武蔵国による影響、九州で天然痘が流行するなど、国の運営に困難な状況が生まれてしまいました。当時皇位争いに陥りつつあった皇太子が、この地を巡幸したため、全国に国分寺が建立されました。」

現在の国分寺は寛政6(1756)年に再建されました。

市民ページ 3 魅力がいっぱい! 「こくベジ」

「国分寺三百年野菜「こくベジ」とは...

「こくベジ」とは、国分寺市内で農家の皆さんが販売を目的として生産した地場野菜の愛称です。国分寺市は市域に占める農地割合が高く、暮らしの近くに農があちます。そのルーツは今から約三百年前に行われた新田開墾がきっかけであり、それ以来、農家の皆さんは土を育てることを大切にしながら農業を営んできました。私たちが日々目にする地場野菜「こくベジ」は、農家の皆さんの知恵と工夫によって三百年以上つづいてきた誇り作られた歴史の集大成なのです。

こくベジの歴史

「こくベジ」事業の展開により、国分寺の農業や野菜、地産地消への関心が高まっています。実際に野菜を生産する農家の考えや国分寺野菜のことを皆さんにも知っていただくために国分寺の野菜の魅力を伝えていきたいと思います。今回の取材に当たり、清水農園の皆様のご協力をいただきました。

こくベジのこだわり

「新鮮で生産者の顔が見える。だから安心」であることがこくベジのこだわりです。農家のプロの安心・安全・美しく目で見てもおいしい野菜を、できるだけ採れたてで提供するこくベジに育てることが多くの国分寺の農家の皆さんに誇りです。」

農業とは、こくベジとは

「農業は自分が種をまき、土を育てながら育てる仕事です。季節の移りかわりを感じながら現在の便利な世の中では感じられない、賢いことです。そのように仕事から生まれるこくベジを消費することによって農業と同じように土に感謝し、四季を感じられるのです。」

こくベジ豆知識

知っているようで知らない豆知識をご紹介します。

- 青い部分の葉は食べられませんが、肥料になります。
- かきんぎょは歯の間の歯垢を取り除くのに効果的です。
- かきんぎょは、かきんぎょの心臓が赤い色になっています。

少量多品目栽培のひみつ

「国分寺市内では少量多品目くさん、あります。それはみんなの心を育てる野菜を大切に栽培し、消費者の思いにこたえながら、そんな風に消費者に寄り添って...

市民ページ 4 そうなの?!日本の宇宙開発 発祥の地、国分寺市

市民ページ 5 国分寺で ホタルを見よう!

ペンシルロケットについての知識の乏しい私たち(国分寺物語メンバー)は、「日本の宇宙開発発祥の地 顕彰会(以下「顕彰会」といいます)に所属し、ペンシルロケットに詳しい国分寺駅南口商店会会長小林治さんに基礎知識を教えてください。そして顕彰会が後世に伝えていくためにされていることを伺いました。

ペンシルロケットの歴史

日本の宇宙開発の歴史は、昭和30(1955)年4月12日に国分寺市(当時)現在の早稲田中学校の敷地内でペンシルロケットを作った。日本初の水筒形実験機から始まりました。ペンシルロケットとは、その名の通り長さ23cm、直径1.8cm、重さ約200gと大きさがロケットであり、機体もいない時期によく手にした固体燃料のロケットです。当時の下にはタイムカプセルが埋まっています。

顕彰会の活動

平成18(2006)年に水筒形実験機から50年を記念して、小林さんも所属し、市民の方たちで構成された「日本の宇宙開発発祥の地 顕彰会」が発足されました。小林さんには顕彰会が、国分寺が日本の宇宙開発発祥の地であることを伝えるために記念碑の設置計画を進め、設置場所の検討や記念碑の設計にあたってはタイムカプセルを埋め込んでいきます。記念碑の下にはタイムカプセルを埋め込んでいきます。小林さんには顕彰会に所属している小林治さんにインタビューを行いました。

国分寺でホタルを見よう!

皆さんは、国分寺でホタルが見られるのをご存知ですか?国分寺では、ホタルの住みやすい環境を作る活動、ホタルを見られるイベントなどが行われています。

1 ホタルの復活を目指す!

ホタル復活に向けて、「泉山自治会」「緑と自然を守る会」「国分寺ふるさとづくり委員会」が「ホタルもよう一年の会」が、泉の池ホタルの池を復活しています。「泉の池ホタルの池」は、泉の池の緑地帯で遊歩道の整備、下水処理、雑草など、環境改善活動を毎月行います。また「ホタルの池」は、「国分寺」では、「池」は「ホタル」の餌となるワニガ子育成の一環で、毎年春と秋に清掃活動を行っています。このように、ホタルが安心して住める環境を作るため、市内では多くの人が熱心な活動を行っています。

2 泉の池でホタルを観賞しよう! 「ホタルの夕べ」

泉の池に、生物多様性の象徴であるホタルを復活させようという取組からこのイベントは始まりました。2011年から毎年4月に開催され、届いたホタルが展示されます。観賞は、約1,000人の人が参加し、観賞は、泉の池に、ホタルが飛び交い光る様子を堪能することができます。(主催:泉の池ホタルの会)

3 ホタルの養殖!

国分寺では、自然環境を整備することに加え、ホタルの養殖を行っている方もいます。そこで、上記2つの活動に加え、ホタルの養殖も行う機会三田村慶春さんに取材しました!

生まれたホタルの数をより増やすためには、生きたホタルを育てる必要があります。その方法として、ホタルの養殖も行っている三田村慶春さんに取材しました。

生きたホタルの数をより増やすためには、生きたホタルを育てる必要があります。その方法として、ホタルの養殖も行っている三田村慶春さんに取材しました。

市民ページ

市民ページとは、市民にとってよりわかりやすく、そして親しみやすい総合ビジョンとなるようなアイデアとして企画されたものであり、ワークショップで出された国分寺の歴史や農業等の特定のテーマについて、市民が紹介する記事です。

具体化に当たっては、国分寺の魅力を物語手法で伝える地域WEBサイト「国分寺物語」を運営する東京経済大学の学生が、取材からページ構成まで、市民として作成していただきました。

市民ページ



- p186 ■ 親子で楽しい国分寺子育てライフ!
- p187 ■ 国分寺に歴史あり
- p188 ■ 魅力がいっぱい! 「こくベジ」
- p190 ■ そうなの?!日本の宇宙開発発祥の地, 国分寺市
- p191 ■ 国分寺でホタルを見よう!
- p192 ■ 市民ワークショップの紹介

親子で楽しい 国分寺子育てライフ！

国分寺には、気軽に子育ての相談ができる場所・イベントや子ども達が普段家では体験できないことができる遊び場があります。このページでは、その施策や施設の一部と子育て支援活動をされている方へのインタビューをご紹介します。

放課後の居場所づくり施策

放課後子どもプラン国分寺

子ども達が放課後に校庭や学校施設で遊べるように、各学校の保護者を中心とした実施委員会が、学校や地域の方と協力して、子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを運営しています。



放課後子どもプラン



18歳未満の子どもと保護者, 子育てに関わる人のための施設

国分寺市立子ども家庭支援センター

「親子スペース」、「講習会」、「総合相談」、「かるがも相談」、「児童虐待相談」など、子育てに関わる相談を幅広く受け付けている施設です。



講習会「パパと子どもの遊びの会」

国分寺市の
市民活動団体へ
インタビュー！

「必要なことは体験」



BOUKENたまご

認定NPO法人「冒険遊び場の会」では、子ども達の遊び場を保証するために冒険遊びの場だけでなく広くまちなかの遊び場作りや子育て支援などを目的に多彩な活動を行っています。

お話を伺っている中で一番にご紹介したい施設が、国分寺市プレイステーションです。この施設は誰でも無料で利用することができます。この施設では、木工工作など、普段家でできないような遊びや、子ども達がやりたいと思った遊びを、子ども達ができるように職員の方がサポートしています。

「冒険遊び場の会」では他にも、「青空ひろば」、「BOUKENたまご」など、子どもはもちろんのこと、子育て中の親が安心して集まれる場所を提供しています。

認定NPO法人「冒険遊び場の会」の代表である武藤陽子さんより、「将来を担う子ども達を育てるにはまず親に理解してもらうことが必要です」という話を伺いました。子育て生活の中において、子どもだけではなく、親も伸びのびと過ごせる場の必要性についてインタビューを通して考えました。子どもを育てるといふ重圧を親にだけ背負わせないように地域が一体となって子育てできる環境を作っていくことが、将来の国分寺にとって大切な取組の一つとなるでしょう。



国分寺市プレイステーション

国分寺には国指定史跡の武蔵国分寺跡など様々なメディアで特集されるような歴史を持っています。また同時に、駅周辺の開発により新たな人やモノの流れが生まれています。そんな新旧が混ざり始めている国分寺の魅力について、医王山最勝院国分寺住職の星野亮雅さんとおばあさんの知恵袋店主の三田村慶春さんにそれぞれインタビューを行いました。



語り手

医王山最勝院国分寺住職

星野 亮雅 さん

国分寺建立の背景

「天平13(741)年、聖武天皇の国分寺建立の詔によって、全国に国分寺という名のお寺が建立され、ここ武蔵の国にも建立されました。当時の都である平城京で大きな地震による被害、九州で天然痘が流行するなど、国の運営すら困難な状況が生まれてしまい、当時は神仏に祈り続けるしかないような状況であったため、全国に国分寺が建立されました。」

現在の国分寺は宝暦6(1756)年頃に再建されたとされています。国分寺は当時から人々の祈禱のために大切にされてきたことがわかります。

長い年月の間 遺跡が残っている理由

「当時の中国の思想で良い地に建てられた背景があるため、今で言うパワースポットのような所として大切にされてきた経緯があるからです。また、国分寺は起伏が激しく谷が多い土地なので、水の豊富な土地だということもあります。水を求めて国分寺に人々が住み着いたため、遺跡がたくさん残っています。」国分寺は武蔵の国(現在の埼玉、東京、神奈川にまたがる地域)の中でも好所であったと言えます。



語り手

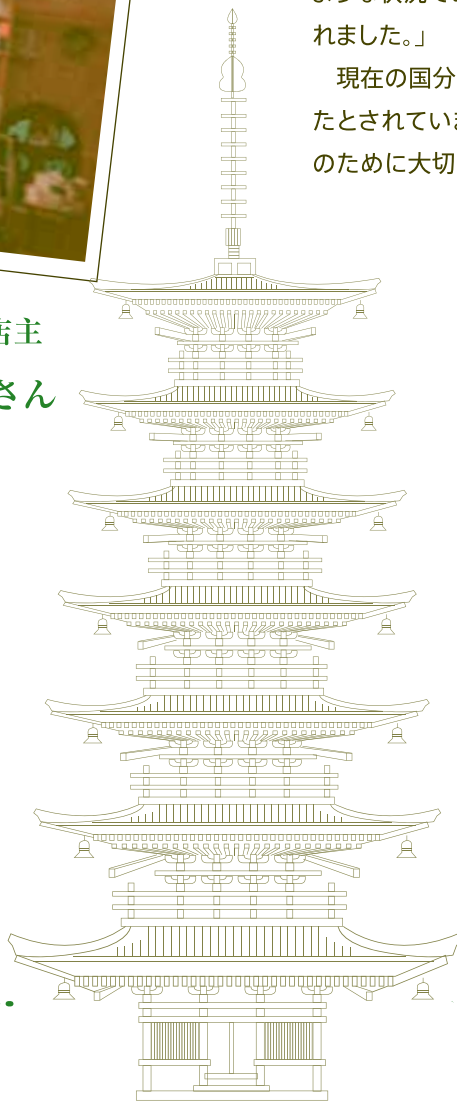
おばあさんの知恵袋・店主

三田村慶春 さん

開店以来 40 年間 国分寺の変化

「目に見える形では、駅ビル開発が大きな変化となって新しい人の流れが生まれつつあります。しかし、変化しながらも歴史あるものを残している傾向もあります。」

国分寺は、古い歴史を大事にしつつ新しいものを受け入れる土壌を備えているまちです。



魅力がいっぱい！ 「こくベジ」

市民ページ 3

「国分寺三百年野菜 『こくベジ』」とは…

「こくベジ」とは、国分寺市内で農家の皆さんが販売を目的として生産した地場野菜の愛称です。国分寺市は市域に占める農地割合が高く、暮らしの近くに農があるまちです。そのルーツは今から約三百年前に行われた新田開発がきっかけであり、それ以来、農家の皆さんは土を育むことを大切にしながら農業を営んできました。

私たちが日ごろ目にしている地場野菜「こくベジ」は、農家の皆さんの知恵と工夫によって三百年以上つづいてきた畑で作られた歴史の集大成なのです。

「こくベジ」事業の展開により、国分寺の農業や野菜、地産地消への関心がさらに高まっています。実際に野菜を作る生産者側の考えや国分寺野菜のことを皆さんにも知っていただくことで国分寺の野菜の魅力を感じていただきたいと思います。

生産者への
インタビュー

今回の取材に当たり、清水農園の皆様にご協力をいただきました。

少量多品目栽培のひみつ

「国分寺市内では少量多品目栽培をする農家がたくさんあります。それはみんなが食べたい野菜を作り、旬な野菜を一番おいしい時期で食べてもらいたいという生産者の想いがあるからです。国分寺の農業はそんな風に消費者に寄り添ってできているのです。」



市内農産物直売所

こくベジのこだわり

「『新鮮で生産者の顔が見える、だから安心』であることがこくベジの魅力です。農業のプロが安心・安全・美しく・目で見ておいしい野菜を、できるだけ採れたてで提供することにこだわり育てることが多くの国分寺の農家の皆さんの想いです。」



こくベジを「作る」魅力

「それは、畑のすぐ近くにある直売所で実際に買っていくところを見ることができてお客さんの声が聞けることです。『こんな野菜があるんだ!』という驚きの声や『この野菜が美味しかった』という嬉しい声は作り手のモチベーションにつながります。直売所で単に野菜を販売しているのではなくお客さんから嬉しい声をもらうという、ギブアンドテイクの関係になっているのです。」



農業とは、こくべじとは

「農業は自然が相手の職業で、四季を感じながらできる仕事です。季節の移ろいを体で感じることは現在の便利な世の中では感じられない、贅沢なことです。そのような仕事から生まれるこくべじを消費することによって農業と同じように土に触れ土を感じ、四季を感じられるのです。」

これからもこくべじと



史跡の駅おたカフェ／国分寺野菜を使ったポタージュは、天然酵母のパンに合う優しい味。

「農業は消費者の理解がなければ継続することは難しいものです。消費者には生産する場としてだけでなく緑を感じる憩いの場として捉えてほしいです。通勤・通学で畑を見ながら通ることで一緒に感じられることがあるのではないのでしょうか。」

こくべじ豆知識

知っていると役立つ、こくべじの豆知識をご紹介します。

ネギ

青い部分のねばねばが風邪予防になる。

大根

おいしい大根は表面のくぼみが縦に揃っている。

調理

採れたての新鮮な野菜だからこそ、その野菜の持つ本来の味を楽しんでほしい。そのためには火を入れすぎないことが大切。こくべじを使って、普段とは違う初めての食べ方で調理してみてください！



こくべじの取材を通じて

国分寺では新鮮な国分寺野菜を生産する農家の方々が地産地消を目指して活動していますが、消費者が生産者である農家の方々の想いに触れる機会はまだまだ少ないと言えます。

国分寺には農家の方々が運営する野菜直売所が多く存在しており、野菜直売所に行くことで農業に携わる方と近い距離で関わることができます。

そんな「人のかかわり」によって、今まで知ることのなかった農家の方々の想いや地産地消のことを知ることができるのです。

農家の方々が消費者である皆さんと触れ合い、反応を知ることによって、また一歩「地産地消」につながるのではないかと感じました。

そうなの?!日本の宇宙開発 発祥の地, 国分寺市

ペンシルロケットについての知識の乏しい私たち(国分寺物語メンバー)は、「日本の宇宙開発発祥の地 顕彰会」(以下「顕彰会」といいます。)に所属し、ペンシルロケットに詳しい国分寺駅南口商店会会長小林治さんに基礎知識を教えていただき、そして顕彰会が後世に伝えていくためにされていることを伺いました。

ペンシルロケットの歴史

日本の宇宙開発の歴史は、昭和30(1955)年4月12日に国分寺町(当時)、現在の早稲田実業学校の敷地内でペンシルロケットを使った、日本初の水平発射実験から始まりました。ペンシルロケットとは、その名の通り長さ23cm、直径1.8cm、重さ約200gと大変小さいロケットであり、戦後間もない時期によく手に入った固体燃料のサイズが約12cmだったことから、この大きさに決まったそうです。



ペンシルロケットのレプリカ



日本の宇宙開発発祥の地 記念碑

顕彰会の活動

平成18(2006)年に水平発射実験から50年を記念して、小林さんも所属し、市民の方たちで構成された「日本の宇宙開発発祥の地 顕彰会」が発足されました。小林さんたち顕彰会は、国分寺市が日本の宇宙開発発祥の地であることを伝えるために記念碑の設置計画を進め、設置場所の検討や記念碑建設にあたっての費用を寄付で集める活動をしたそうです。記念碑の下にはタイムカプ

セルが埋められました。中には、全国の小中学生が「50年後のロケット図案」をテーマに描いた絵の優秀作品などが、入れられています。タイムカプセルが開封されるのは実験から100周年となる2055年です。顕彰会はタイムカプセルが忘れられないように小学生を対象に「水ロケットの製作と記録会」を学校の校庭を借りて行っています。そこで、タイムカプセルのことや、ペンシルロケットのことについて伝え、後世に残していく活動をしています。そして、ペンシルロケットを通じて、子どもたちにどんなに困難な状況下でも、考え方や発想を逆転することによって物事を達成することができるということを伝えていきたいと話されていました。また、過去・現在・未来の融合をペンシルロケットを通じて行っていきたいとも話されていました。



小林さん(写真左)へのインタビュー

国分寺で ホタルを見よう！

皆さんは、国分寺でホタルが見られるというのをご存知ですか？国分寺では、ホタルの住みやすい環境を作る活動、ホタルを見られるイベントなどが行われています。

1 ホタルの復活を目指す！

ホタル復活に向けて、「泉山自治会」、「緑と自然を育てる会」、「国分寺にふるさとをつくる会」および協賛の「ホタルよもう一度の会」が「姿見の池ホタルの会」を構成しています。「姿見の池ホタルの会」では、姿見の池緑地で遊歩道の整備、下草刈り、補植など、環境作り活動を毎月行っています。また、「お鷹の道」沿いの“もとまち用水”では、「若竹会」がホタルの餌となるカワナ育成の一環で、毎年春と秋に清掃活動を行っています。

このように、ホタルが安心して住める環境を作るため、市内では多くの人が熱心な取組を行っています。



カワナ育成の一環で、もとまち用水で行われている清掃活動

2 姿見の池でホタルを鑑賞しよう！「ホタルの夕べ」



「ホタルの夕べ」が開催される姿見の池

姿見の池に、生物多様性の象徴であるホタルを復活させようという取組からこのイベントは始まりました。2011年から毎年6月に開催され、籠に入ったホタルが展示されます。現在では、約1,000の方が参加します。暗闇に包まれた姿見の池が、ホタルが放つ淡い光によって照らされる光景は必見です。(主催：姿見の池ホタルの会)

3 ホタルの養殖！

国分寺では、自然環境を整備することに加え、ホタルの養殖を行っている方もいます。そこで、上記2つの活動に加え、ホタルの養殖も行っている橋本正美さんに取材をしました！

ホタルの養殖において 大変なことは何ですか？

生まれたホタルの数をどう維持するかですね。生まれてある程度大きくなってからは楽ですが、小さいときは100匹のうち、2、30匹しか残りません。だから養殖の場合は、100匹産んだら10匹くらいしか大きにならないのです。ホタルの養殖に挑戦した人はいますが、現在でも行っている人は3人です。やはり、継続して行っていくことが大事です。



© ホッチプロジェクト



市民ページ 市民ワークショップの紹介



本計画の策定の過程では、多くの市民の方にご協力をいただきました。全5回開催の市民ワークショップでは、計画に関するテーマについて、様々な貴重なご意見・アイデアをいただきました。

ワークショップ各回の概要

World Cafe

カフェのようなリラックスした雰囲気の中で、「国分寺市の理想の未来像」について活発な議論が交わされました。9割を超える方が「またワークショップに参加したい」とのご意見で、地域に対する関心の高さがうかがえました。

未来ワーク

第1回

市が未来に向けて取り組むべきことや市の強みを確認した上で、「未来のまちの姿」を表すフレーズ案について検討しました。歴史や自然など国分寺らしさが含まれた魅力的なフレーズ案を各グループで作成しました。

未来ワーク

第2回

各分野の理想と課題について検討しました。また、課題に対して、行政と市民が協働で解決するためには何が必要であるか、対応策と役割分担を検討しました。

未来ワーク

第3回

総合ビジョンを「いかに市民に知ってもらおうか」という視点に立ち、プロモーション(広報)方法や、「市民ページ」の作成について検討しました。

市民ページについて

市民ページとは、市民にとってよりわかりやすく、そして親しみやすい総合ビジョンとなるようなアイデアとして企画されたものであり、ワークショップで出された国分寺の歴史や農業等の特定のテーマについて、市民が紹介する記事です。

具体化に当たっては、国分寺の魅力を物語手法で伝える地域WEBサイト「国分寺物語」を運営する東京経済大学の学生が、取材からページ構成まで、市民として作成していただきました。

未来ワーク

第4回

「実行計画」の施策案の検討等を行いました。